

東京ヴィヴァルディピアノ八重奏団

Tokyo Vivaldi Piano Octet

イタリアン・バロックの響きと現代の斬新な感覚を併せ持つ東京ヴィヴァルディピアノ八重奏団は、レパートリーをより広げ、凝縮した音楽を生み出します



Since 1961 東京ヴィヴァルディ合奏団 TOKYO VIVALDI ENSEMBLE
～さらなる音の拡がりと夢を求める～



2021年創立60周年、日本を代表する室内合奏団

1961年結成、東京藝術大学の出身者により設立。

70年代にヨーロッパ公演を成功させ揺るぎない地位を築く。弦楽五部とチェンバロの12名編成は創立以来変わらず1985年より現・音楽監督、チェリストの渡部宏(わたなべこう)が中心となり、さらなる音の拡がり求め、全員男性奏者によるメンバーに一新、イタリアンバロックサウンドを充実させる。巨匠ヴィヴァルディの遺した膨大な数のヴィルトゥオーソ作品介绍することは重要な柱でもあり、同時にバロック音楽のみならず古典から近・現代の作曲家の作品の幅広いレパートリーにも積極的に取り組み、指揮者を置かず生み出される演奏からは緊張感そしてダイナミックで重厚なサウンドに溢れ、自由性をもった音楽表現の濃(コマ)やかさが高く評価される。尚、コンサート・マスターは1985年以降は客員としている。ゲストソリストには海外及び国内の一流奏者を招くことにより、メンバーそれぞれの資質向上、若手の登用と育成も目指している。そして演奏会においてメンバーが独奏を担当し公演毎のプログラムに対してより高密度で充実、新鮮な音色を追求している。年間継続スケジュールとして「新春は『四季』を聴きたい」、「定期演奏会」、「イタリア文化会館での『Viva Vivaldi! (ヴィヴァルディ!)』」、「ファンタジックなクリスマス」、2021年60周年を記念して、六本木ヒルズ51階でのランチ・コンサート「天空から時空を超えて」をスタートさせた。2022年からは子供向けではなく、子供から大人までの「東京ヴィヴァルディラグジュアリー」を開始。他「名曲選」、「音楽の絵本ファンタジー」、「ヴァレンタイン・スペシャル」なども多岐に開催。アッテルベリ、ワインズワイク作品などの本邦初演また世界初演も数多くさらに委嘱による作品として、2001年創立40周年記念の外山雄三作曲「組曲『弓の月』～東京ヴィヴァルディ合奏団のための～」、2005年イタリアの作曲家B・ボレーナ「チェンバロ協奏曲～東京ヴィヴァルディ合奏団のための」、などの作品がある。聴き手に「期待と夢に膨らむ魅力ある公演」として上質な演奏会を堅持し提供することを目指し、そして「確かな演奏技術の上に生きた音色と音楽」を演奏者自身の理念としている。流行に左右されず作曲家・作品に敬意を払い、真摯な音作りと正統派でありつつチャレンジする姿勢に多くのファンの指示を得る。近年は12名基本編成にとどまらず、三重奏から管打楽器を取り入れた室内オーケストラ編成、特に東京ヴィヴァルディ管弦楽団は高い評価を得ており、日本では類まれな室内合奏団として、2021年創立60周年を迎えさらに大きく歩み続けている。



「日本ヴィヴァルディ協会」(初代会長 戸口幸策、名誉会長ジョヴァンニ・グリエルモ)は、ヴィヴァルディの研究はもとより、合奏団の後援組織として活動し、また特別・賛助(法人・個人)、定期、ファンクラブの会員制度とともに団の活動を力強く支えています。

◆ CD 〈東京ヴィヴァルディ合奏団〉

「お気に入り」～ イタリア合奏団創始者G.グリエルモ(ヴァイオリン)を迎えてイタリア作品集

♪!ハイレゾリューション(高音質・リマスタリング盤)で再発売!

「弦楽のためのアダージョ」～

アメリカの新鋭ヴァイオリニスト、Y.クティックを迎えて弦楽名曲選

以上、マイスター・ミュージックよりリリース

◆ オフィシャルサイト <http://vivaldi.jp/>

♪合奏団のロゴマーク、2匹の猫たちはチェリスト・画家の雨田光弘氏による作品で、「ヴィーヴァ」と「ルディ」の名前は一般公募によりつけられました。

興風会館

〒278-0037 千葉県野田市野田 250 番地

TEL 04-7122-2191

<https://www.kouhoo1929.or.jp/>

アクセス

電車ご利用の場合 東武野田線「野田市」駅下車 徒歩10分
または、「愛宕」駅下車 徒歩15分

バスご利用の場合 茨急バス(岩井車庫行き)
「キッコーマン前」下車 徒歩1分

駐車場 右図駐車場をご利用ください。

